

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
			学部	□必修 □選択	
英文表記	Macro EconomicsⅠ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	深澤 泰郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	マクロ経済学の基礎を、日本経済を例としてじっくり学びます。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. 上記により、日本経済新聞の経済関係の記事の理解度が、大幅に上昇し、社会人と求められる水準に届く。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、掲示資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。				
授業計画	(授業においてポータルサイトに掲示された資料等は、すべて試験の範囲に含まれる)				
第1回	イントロダクション：現在の世界経済の外観、日本経済の現在の立ち位置、決定的な人口問題 配布資料				
第2回	マクロ経済学とは何か？「日本の失われた30年」とマクロ経済学、掲示資料				
第3回	GDPとは何か（生産＝所得の概念）			テキスト	第2章
第4回	GDPとは何か（生産＝支出の概念）			テキスト	第2章
第5回	名目値と実質値、「総」と「純」の概念、減価償却費			テキスト	第2章
第6回	交易利得について、GDPとGDI				配布資料
第7回	金融市場 金利（現在価値の考え方、スポットレートとフォワードレート、債券価格の計算）				配布資料
第8回	中間テスト（持ち込み可）				
第9回	数学的な基礎（数列、ネイピアのe、対数等）、中間テストの回答と解説・返却				
第10回	閉鎖経済の短期モデルの展開①（短期モデルに基本的な考え方と乗数効果のメカニズム）			テキスト	第6章
第11回	閉鎖経済の短期モデルの展開②（財市場の数量調整と貨幣市場の需給調節）			テキスト	第6章
第12回	閉鎖経済の短期モデルの展開③（IS-LMモデルにおける財政・金融政策）			テキスト	第6章
第13回	IS・LMモデルの計算問題演習			テキスト	第6章
第14回	現在の日本の金融政策				配布資料
第15回	日本の一般政府の財政状況				配布資料
第16回	定期試験(持ち込み不可)、期末テスト（持ち込み可）				
授業時間外の学習	資料をポータルサイトに掲示しますので、テキスト・資料は事前に通読して疑問点があれば質問すること（0.5～1時間）。確認のための復習をし、疑問点があれば翌週に質問すること（0.5～1.0時間）。				
履修条件 受講のルール	2年時以降には、マクロ経済学Ⅱを受講すること。マクロ経済学Ⅱの受講時には、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱの単位を履修済のこと。 テキストを必ず購入してください。また、適宜資料を掲示しますが、休んだ場合はポータルサイトを確認してください。 受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。				
パソコン使用に	受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業で				

について	パソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。 なお、長文の資料等については、正しい理解ためにはプリントアウトが必要な場合があります。そのコストは自己負担となりますが、適宜判断して下さい。
テキスト	「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」斎藤誠ほか3名、及びポータルサイトに掲示する資料
参考文献・資料	第3回授業「金融危機の本質シリーズ 補足数学簡単解説Ⅰ」深澤泰郎 第7回授業：「金融商品情報（一口知識）（1）スポットレートとディスカウントファクター、同（2）フォワードレートについて」深澤泰郎 第14回授業：「日本経済と財政危機の本質シリーズ5 アベノミクスは間違った振り、本当は狙い通り！」深澤泰郎
成績評価の方法	中間テスト（40%）、期末テスト（40%）、定期試験（10%）、その他（10%） 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	長年、金融機関、学校等で機関投資家として長期投資を行ってきました。その中で、市場の長期予想を行ってきましたが、国としての日本経済の先行きはかなり暗いと思います。ただ、マクロ経済としては改善しないとしても、皆さんのような若者が、個人として人口減少下で生き抜く方法は必ずあります。そのことも授業の中でお話ししたいと思います。
学生へのメッセージ	マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。なお、マクロ経済学を一通り理解するためには、マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、経済成長論の3科目を履修することが望ましい。株価が最高値を更新したとしても、日本経済の将来は相当暗いと言わざるを得ません。その中で、個人として幸福になる道が、マクロ経済学を学ぶことによって見つかるかもしれません。

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修	■選択
			学部	□必修	□選択
英文表記	MacroeconomicsⅠ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	たにがわ このの	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	谷川 琴乃	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	マクロ経済学の基本的な理論を学び、経済全体の動きを理解するための基礎を築く。				
到達目標	1. GDPや経済成長、失業、インフレなど、マクロ経済の主要概念を理解する。 2. 乗数理論やIS-LM分析を用いた経済分析の手法を学ぶ。 3. 財政政策・金融政策の役割を理解し、実際の経済問題に応用できる力を養う。				
授業概要	マクロ経済学は、経済全体の動向を分析する重要な分野であり、経済学を学ぶうえで不可欠な要素です。本授業では、マクロ経済学の基礎理論を中心に学び、「マクロ経済学Ⅱ」へとつながる基盤を築きます。特に、理論的な枠組みを重視し、マクロ経済政策の効果を分析するための基礎を確立します。				
授業計画					
第1回	GDPとは何か？（第1章）				
第2回	消費と貯蓄の決定要因（第2章）				
第3回	投資の役割とその決定要因（第3章）				
第4回	金融市場と株価の関係（第4章）				
第5回	貨幣の需要と供給（基礎）（第5章）				
第6回	貨幣の需要と供給（応用）（第5章）				
第7回	乗数理論（第6章前半）				
第8回	IS-LM分析（第6章後半）				
第9回	経済政策の有効性（第7章）				
第10回	財政赤字と国債の影響（第8章）				
第11回	インフレとデフレのメカニズム（第9章）				
第12回	労働市場と失業の理論（第10章）				
第13回	経済成長の理論（第11章）				
第14回	国際マクロ経済（為替レート・経常収支）（第12章）				
第15回	総括				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	事前学習：各回の授業前に指定されたテキストの該当部分を読んでおく。（1.5時間程度） 事後学習：提出された演習問題に取り組み、理解を深める。（1.5時間程度）				
履修条件 受講のルール	特に履修条件は設けないが、ミクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。				
テキスト	福田慎一，照山博司，『マクロ経済学・入門 第6版』，有斐閣アルマ，2023年 ※別に資料を配布する場合は、授業日までにポータルサイト上へ資料を掲載します。各自パソコン等にダウンロードするか印刷するなどして予習し、授業に持参してください。				
参考文献・資料	N・グレゴリー・マンキュー著，片桐満，篠潤之介，溝口哲郎訳，『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 第5版』，東京化学同人，2025年。 ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト著，岩本康志監訳，岩本千晴訳，『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』，東洋経済，2019年。				

	ジョセフ・E・スティグリッツ，カール・E・ウォルシュ著，藪下史郎，秋山太郎，蟻川靖浩，大阿久博木立力，宮田亮，清野一治訳，『スティグリッツ マクロ経済学(第4版)』，東洋経済，2014年。 坂上智哉，小葉武史編著，『トリアーデ経済学 マウロ経済学入門（第2版）』，日本評論社，2021年。 その他、講義内で適宜紹介します。
成績評価の方法	授業態度(10%)、課題(30%)、定期試験(60%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 (10:40～12:10) 木曜日 (10:40～12:10、13:00～14:30)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	マクロ経済学は、ニュースや社会問題を経済の視点で考えるための重要な学問です。本講義では、理論を中心に学びますが、実際の経済問題にも関連づけながら考える力を養ってほしいと思います。主体的に学び、経済の仕組みを深く理解できるよう、一緒に学んでいきましょう。

